

村政懇談会(舟石川・船場地区) 会議録

～(高齢化世帯増加に伴う自治会活動のあり方)～

記録者:横須賀

○日 時 令和3年7月3日(土) 10時00分～12時00分

○場 所 舟石川コミュニティセンター 会議室

○出席者 <舟石川・船場地区> ※敬称略

鹿志村直也(舟石川二区自治会長), 萩谷清美(船場区自治会長),
山川典夫(舟石川一区自治会長), 萩谷好昭(舟石川二区副自治会長),
清藤和明(船場区副自治会長), 高橋範夫(舟石川一区副自治会長),
森野明和(舟石川二区前自治会長), 高槌満(舟石川一区集会所管理者),
湊裕子(舟石川二区会計), 小川敬一(船場区書記), 熊谷克美(舟石川一区会計)
舟石川コミュニティセンター 横須賀副センター長, 茂垣専門サポーター

計13名

<東海村>

山田村長, 萩谷副村長

村民生活部 佐藤部長

地域づくり推進課 池田課長, 三瓶課長補佐, 鷹野課長補佐, 大道係長, 鈴木主任

計8名

○主な内容

1. 開会

2. 趣旨説明

【池田課長】

これまで村政懇談会は大勢の中での開催だったのでその開催方法を見直した。全員の方の意見をいただけなかったということで、少し人数を絞り、参加者同士で色々な意見交換ができればと考えた。また、これまでの村政懇談会は、要望が多かったことから、今回は村と地域の方と話し合う時間を多くとるような形になればと思っている。個別の要望についてはこれまで通り、自治会要望、村民提案、村民レター等で承りたいと考えている。

本日の趣旨であるが、1つ目は、地域の方々に決めていただいた「高齢化世帯増加に伴う自治会活動のあり方」というテーマについて話し合う場としたい。2つ目は、今後、このテーマについて地域の皆様で話し合いを重ねていただくためのきっかけとなればと思っている。本日この場だけでは、自治会活動の今後のあり方についての答えが出るものとは思っていない。今後地域として皆様が話し合いを重ねていただく中で何か取り込むことはあるか、一緒に村と取り込むべきことはあるかなどを話し合ってください、村として一緒にやっていくものがあれば、今後の村の政策等に反映させていただきたいと考えている。本日は「きっかけ」にしたいと考えている。

3. 村長あいさつ

【山田村長】

村政懇談会に参加いただき感謝申し上げます。今年度、村政懇談会のスタイルを変え、舟石川・船場地区は3箇所目となる。人数を絞って実施するため、参加者全員から意見をもらいたい。対役場

の意見だけでなく、参加者同士でも意見交換ができれば良い。役場に対する要望が出てしまうことはやむを得ない。

コロナ禍の状況が少しずつ良くなってくると思うが、これまでの活動をそのまま続けるのか考える時期にきている。毎年事業計画が決まっているので、事業そのものを続けた方が良いのか考えるタイミングだと思っている。今回をきっかけに話し合いを継続し、今年度後半の地域活動をどうしていくのか、令和4年度に向けてどうするか話し合ってもらいたい。

ワクチンについて、村では75歳以上より接種を開始し、現在は60歳以上の人は予約ができるようになってきている。前倒しで対応したいと思っていたが、国・県としてワクチンの供給が絞られているので、混乱のないようにやっていく。職場接種も始まる場所もあり、そのような場を活用してもらおうことも考えている。ワクチン接種は義務ではないが、多くの方々に接種をしていただくことで効果がでてくるのではないかと期待している。

4. 出席者紹介

5 テーマに関係する現状

【佐藤 村民生活部長】

- ・資料1「行政区分年齢別の世帯数及び人口推移」：村全体の人口動向について、全国的には人口減少と言われているが、東海村についてはそんなに減っていない。ただ、人口割合が大きく変わり、高齢者の割合が増えている一方、子どもや現役世代が減っている。船場地区は、人口が増加、高齢者も増加している。15歳から64歳の現役世代も増加。舟石川一区は、高齢者及び15歳から64歳も増えている。15歳未満は減少している。舟石川二区は、人口、高齢者ともに増加している。15歳から64歳も増加、15歳未満は減少している。
- ・資料2「村全体の自治会ごとの人口動向についての順位付け」：村内で1番人口が多いのが白方地区。舟石川一区が2位、舟石川二区が4位、船場区が8位である。逆に平均年齢が高い順で見ると、船場区が46.72歳で12位、舟石川一区二区は22,23位と低い。高齢化率、舟石川一区は非常に低い特徴がある。
- ・資料3「自治会ごとの高齢化率」：各単位自治会の高齢化率を色分けした資料である。
- ・資料4「地域活動に対する村の支援」：地域活動に村としてどのような支援に取り組んでいるかをまとめた。①情報交換や交流機会の提供、②財政的支援、③団体運営に対する人的支援、④地域活動中の事故に対するサポートということで「ふれあい保険」、⑤コミセンの安全安心の確保、施設の管理、⑥地域との協働への取組などがある。
- ・資料5「全国の取り組み事例の紹介」：全国的に自治会活動の負担が大きいという課題がある。負担軽減を考えることが一番大きく、行事等について廃止するもの、続けていくもの、形を変えるものなど、会員同士でじっくり話し合いをし、思い切った見直しをしている例を挙げている。中には、業者に委託をして負担軽減を図るといった取組みもある。
- ・資料6. 「単位自治会の主な活動」：今年度の単位自治会の主な活動をまとめた。
- ・資料7. 「地域おこし協力隊」の活動内容：現在1名の地域おこし協力隊を雇用し、取り組んでいる。東海村の地域おこし協力隊は、一般的な地域おこし協力隊とは少し異なり、自ら地域に入

っていき、地域の方々とイベントの企画から準備、実施までを行っていくというものである。現在は、緑ヶ丘区と亀下区で活動している。ただ近年は、コロナ禍で行事が思うようにいかないということはある。

6 テーマに対する考え・意見(地域の方から)

【舟石川一区自治会長 山川典夫】

- ・舟石川一区では、自治会に加入する場合は燃えるごみの場所の確保が要因である。現在、自治会に加入を希望する人はほとんど若い人で、家を建てた時に加入を希望している。
- ・自治会に加入しなくても燃えるごみを捨てられる場合は、加入する必要がないため、自治会の高齢化の改善は進まないのが現状である。
- ・高齢者は自治会活動の参加が難しい。自治会に入っていないだけでもごみが捨てられるということで、自治会から班ごと脱会する事態が起きている。自治会の役員選考、夏祭り、防災訓練に支障をきたしている。
- ・村の情報がホームページ等デジタル化してきている。高齢者の免許返納で顔合わせの機会も減ってきている。
- ・国道6号の2車線化が進むと横断が難しくなり、自治会の交流が少なくなると考えられる。

【舟石川一区副自治会長 高橋範夫】

- ・村から地区自治会への人的支援は確かにされているが、単位自治会への支援はない。地域との協働の取組みと書いてあるが、少し突っ込んだやり方をしないと単位自治会は薄れてしまう。緑ヶ丘区と亀下区は支援されているが、他の単位自治会もテコ入れして支援していくことを考えていただきたい。
- ・自治会内では、高齢者を班長や役員から外す方法があると思う。また、自治会費を取らないところも全国的にもある。高齢になると、イベント等に参加できず、何のために自治会に入っているか分からなくなってしまう。自治会には若い世代を取り込むことも大事だが、高齢者向けの行事を考えないと、高齢者は置いていかれてしまい相手にされなくなってしまう。高齢者の居場所づくりの場所が欲しい。
- ・自治会の連絡協議会の案について再度検討する余地があると思う。連絡協議会を作ってその自治会の合併を考えたり、事業内容を考えたりすることを検討した方が良い。
- ・自治会に入っても、ただ会費等や寄付金等を取られるとの認識が広がっており、自治会に入ってもなくても良いという考えを持つ人もいる。自治会についてももう少しPRする必要がある。村内への転入者に対して、行政は自治会加入のチラシを配っているだけではないか。自治会のメリット・デメリットをもう少し具体的に説明し、自治会に入らないと困ることもあるということを伝え、加入については半強制ぐらいの指導をしていただきたい。舟石川一区では広報誌上で自治会のPRをしたが、全く反応がなかった。
- ・舟石川一区のお祭りの際に、お囃子会は太鼓演奏による盆踊りを中心をお願いしてきたが、高齢化でそのグループが解散してしまい、盆踊りはできなくなった。
- ・役場の職員が自治会に入って意見を交換するような機会を是非作っていただきたい。

【舟石川一区自治会代表 高槌満】

- ・ 4月より舟石川一区の集会所の管理者として自治会に関わっている。
- ・ 自治会活動は詳しいことは分からない部分が多いが、自分の常会では高齢化で退会者が毎年増えている。昨年度は2名退会している。自治会の脱会理由は、高齢で役員等ができないというのがメインである。高齢になり動けないという理由の人もいれば、役員が回ってくる前に退会するという人もいる。
- ・ 自治会役員及び自治会会員の負担軽減を目指していきたい。

【舟石川一区自治会代表 熊谷克美】

- ・ 自治会に関わりはじめた時と比べると、36世帯少なくなっている。班自体も3班減り、班員が高齢化になり存続できない状況である。舟石川一区は他の地区よりも世帯数が多く、新しい世帯が入らないと活動が不可能になり、自治会自体がなくなってしまう。
- ・ 新しい自治会加入者を増やすのが大事だと思うが、若い人たちが入らないのは自治会にメリットがないからであると思う。舟石川一区では、祭りを開催したり、子ども会に参加してもらったりしているが、直接的なメリットがない。自治会に入ったら住民税が安くなるとか、目に見えたメリットがないと今の若い人は入らないと思う。私自身も役員をやっている中で、メリットが欲しいと思うことがある。
- ・ 舟石川一区には、「なかよし子ども会」と「にじいろ子ども会」があるが加入者が減っている。子ども会に入っている世帯の中でも自治会に入っている世帯が減ってきている。以前、村民会議の運動会では1つの子ども会で100人ぐらいで楽しくやっていたが、今、運動会のために子どもたちを集めようとするのが大変である。子ども会自体も解散してしまう。
- ・ 自治会加入促進の取組は村の方でもやっていると思うが足りないのではないかと。自治会に入らなくてもごみは捨てられるし、広報もコンビニに置いてあり、情報はネット上で得られる。そのような部分をもう少し厳しくするという方法もあるのではないかと。自治会へは半強制的に加入させないと、自治会も高齢化になって何もできなくなってしまう。村の方でも単位自治会に関わっていただきたい。

【舟石川二区自治会長 鹿志村直也】

- ・ 昨年10月の段階で自治会加入世帯は302世帯あったが、今年4月の調査で300世帯を割ってしまった。私自身が所属している常会は現在11名。うち80歳以上の世帯が6世帯以上なので、最終的に常会が存続していくことが難しくなる。できるだけ自治会に留まっていたりたく常会ごとに役目等の免除を認めているところもある。自治会の加入者を高齢者中心に減らさないような取組みをしているが難しい。
- ・ 若い方も何人かいるが、引き続き自治会に参加していただけるかどうかは未知数。5月に常会長を囲んでの懇談会を考えていた。若い世代にPRして例え常会長になっても大変な負担ではないとアピールをしたかったがコロナ禍の影響でできなかった。
- ・ コロナ禍や高齢化に伴い自治会活動も鈍ってしまう。地域おこし協力隊等も活用していくということも大事ではないかと思う。

- ・自治会は脱会者が増えて、将来的に自治会の存続も厳しいのではないかと。新しい取組みの流れになってくるのではないかと。従来の自治会組織が終わって、1つの目的に特化した組織が出てくるのではないかと。

【舟石川二区副自治会長 萩谷好昭】

- ・地域の特性としてアパートが多く、一部のところではミニ開発の団地ができています。高齢化に伴い常会が増えない。アパートやミニ開発団地でも常会を作っていく必要があるのではないかと。
- ・5戸以上のアパートだとごみ集積所もある。自治会に入ると赤い羽根等色々な募金もあり、任意で自治会や常会に入るというメリットがない。メリットやサービスを掲げ、新しく地域に入ってきた家庭が自治会に加入するようなシステムを作っていきたい。

【舟石川二区会計 湊裕子】

- ・今年度役員になった理由としては、「高齢化のためにもう常会長はできないので辞める」という方がいたので繰り上げて自分が引き受けた。五役と常会長が話し合いをした際、会長や副会長に意見をぶつける方もいる。まとめるのが大変でお手伝いしなければと思った。
- ・役員になることで月に何度も集まるのが大変である。若い人も忙しいが高齢者も忙しい。
- ・コロナ禍での自治会の存続はどうか、見直す機会ができた。
- ・地区自治会の企画総務部会で広報誌「いきいき」の編集も依頼された。地区自治会と単位自治会の違いも分からず引き受けたが、同じような業務を両方で行っている。地区自治会をメインにするならスリム化が必要。
- ・村としての考えをどう説明していくべきか。

【舟石川二区前自治会長 森野明和】

- ・今年の1月頃、近所で「助け合い協定」を結んだらどうかという、チラシを作り回覧した。万が一近所でコロナに感染した、又は感染を疑われて自宅待機になった際、協定を結んだ人が買い物やごみの処理等、患者が出た家の生活に支障をきたさないような支援をしてあげてほしいという内容である。その後、近所同士が以前より親しくなったという話も聞いた。
- ・舟石川二区では80歳以上の高齢者は、全ての役職を免除することにした。過去に自治会の役に就き、働いてくれた方が、皆さんに迷惑をかけるからと辞める傾向がある。この方たちを辞めさせないためには、我々が動かなければならない。高齢者を交えた協定をつくる等、何かテーマを考えるべきである。

【船場区自治会長 萩谷清美】

- ・旧住民が多いので高齢化率が高い。若い世帯が入って来たことにより、人口そのものは減少していないが新規の加入者が増えない。
- ・防犯パトロールや除草作業を行うにしても、高齢でできないからと参加者が減っている。
- ・次の世代の担い手が見つからない。70歳位まで勤めている方も多く、断られてしまう。
- ・ここ5年間で30世帯が辞めている。半分は高齢化、残りは常会長になると大変というのが理由である。常会長の職務を軽減しなければと考えている。
- ・従来通りの行事を繰り返すだけではなく、今の時代に合った若い世代が参加しやすいような行事を企画しなければならないと思う。
- ・役場の職員をはじめその家族の方にも率先して地域内の行事等に協力いただきたい。

【船場区副自治会長 清藤和明】

- ・ネットで調べたのだが、自治会加入者が増えない中、全国で自治会が神社の祭りや地域の運動会に力を入れているとの事例があった。
- ・また、住みよい街づくりでは、道路の清掃等、街を綺麗にすると住みたい街に変わってくるというデータがある。
- ・自治会加入者に商品券を配布する自治体も全国にはあったので、そういう事を考えてみてはどうか。

【船場区会計 小川敬一】

- ・条例をつくり、ある程度の強制力で自治会に加入させてはどうか。それぞれ単位自治会の運営も大変になってきている。合併も考えなくてはならない。
- ・元気な高齢者もいっしょに、そういった方たちをどうやって引き出すかを考えなくてはいけない。若い世帯は共稼ぎも多く、時間的に余裕がない。参加しやすいような日曜日や土曜日の時間帯を考える必要がある。手当も大事かと思う。
- ・自治会の活動は、相互扶助で考え行っていると思う。周りの人、知り合いを増やす活動も必要。
- ・お茶のみ場の意見もあったが、空き家等をミニ集会所として使っても良いと思う。

7 地域の意見に対する考え・意見（村長から）

【村長】

- ・たくさん意見をいただいた中で共通するものもあったと思う。以前から、自治会に入るメリットをどのように伝えるかは課題となっている。自治会に入っていることの負担が大きくなってしまいうイメージがついている。自治会に入らなくてもごみが捨てられるとなると、確かに自治会に入らなくても良いと思う人はいる。災害が起きたりすると、自治会の大切さが分かると思うが、平常時は自治会へ関わっていない人にとっては、会費等だけ取られてしまう存在である。普段の生活では、班長の負担など、大変でマイナスイメージしかない。
- ・私は中央地区に住んでいるが、新しく家を建てる人が多い。自治会へ入らない世帯は稀にあるが、ほとんどが自動的に入っている。私が入っている班の活動としては、クリーン作戦に参加するぐらいで、他は特にない。年度当初に自治会費等を集金し、その後は回覧を回すだけである。ただ、回覧ひとつとっても、班長がとりまとめているため負担はあると思う。冠婚葬祭等の役割もない班なのでドライな班だと思う。
- ・若い人たちにとって、個人個人の生活が大切であり、今度班で新たな取り組みをしていこうという話には恐らくならないと思う。班の中に高齢世代と若い世代が混在していると、地域の中の関わりをどう作っていくか難しい。
- ・単位自治会の活動は大変であるが、現在は地区自治会の活動と二重で負担がかかっている。見直しの時期がきている。地区自治会の中の地区社協や青少年育成村民会議については、設立の流れが異なるため、見直すためには別の話し合いの場が必要になってくると思う。地区自治会は単位自治会に上乘せして作ってしまったため、その負担が大きいのであれば、学区や、班（常会）単位で活動していった方が良いのか見極める時期だろう。
- ・防犯を自治会だけでやっていくのは難しく、学区のような広域エリアでみていくのも必要かなと

思う。清掃作業や草刈り等についても、単位自治会ごとに実施すると、できるところとできないところがでてきてしまい、景観上もきれいににならない。広いエリアで地域活性ができれば良いと思う。

- ・それぞれの思いが違うので、見直す時には誰かがリードしなければならない。そういう意味では、役場職員ももう少し関わっていく必要があると思う。今日も皆さんから意見をもらい、今後も話し合いを続けてほしいと述べたが、単位自治会レベルの話し合いの場には役場も入っていく必要があると思う。単純に働き手がいないというだけだったら、地域おこし協力隊のような人材を確保することもあるが、そうではない。単位自治会をどうしていくかは住民の皆さんの総意でやっていく必要がある。
- ・村としては役場職員が入ったからすべて解決できるわけではないし、基本的には私（村長）が各自治会に顔を出してそこで話を聞いて、方向性を見つけていく作業が必要だと思う。これまでは地区自治会ごとに意見を聞いていたが、それではなかなか難しいということが分かった。私自身も話し合いに参加して、一緒に話したこと、個別に聞いたことなどは、改めて皆さんと膝を突き合わせながら考えていきたい。

8 参加者同士の意見交換会

【舟二自治会長 鹿志村直也】

- ・実際に災害が起こった時に自治会の力が発揮されるのだと思う。10年前の震災時もコミュニティセンターは機能していた。また、何年か後に災害が起きた時、新たな担い手の人たちが同じようにできるのか。現在の舟石川二区の状況を見ると難しい。非常時に力を発揮できるような自治会であるべきなのだろうが、現状なかなか出来ない。もどかしさもある。村の支援もある程度必要だと思う。
- ・前向きに自治会の活動を見直す機会であると思う。

【村長】

- ・東日本大震災の時の避難所運営は、役場職員の数では足りず、住民の方、役員の方がボランティアをやってくれた。そのありがたさを自治会に加入していない人は感じていたと思う。そのようなありがたさが自治会への加入に繋がれば良いが、一時的で時間が経つと忘れてしまうのが現状である。
- ・現状で災害が起きると支え手の数が足りず、地域が右往左往してしまう。そうになると、役場に文句や意見がきてしまうと思う。地域の体制が脆弱になると役場は大混乱になり、役場全体が機能不全になってしまう。役場は、全ての住民の対応ができるわけではないので、地域に協力してもらわないと厳しい。税金を払っているのだから役場がやって当然だろうという方もいるが、全ての人の対応をすることは厳しい。私も立場上、皆様に耳を傾けるとは言うが、一方で自助・共助・公助それぞれが必要と言わざるを得ない。課題を解決しなければ何もならないので、現実の厳しい話をしながら危機感を訴えていきたい。
- ・地域に役場職員の姿が見えないと言われ、大変申し訳ないと思うが、地域活動ボランティアについては仕事ではないため、村長としてどこまで命令できるかというのは難しい。職務命令ではな

いので、職員自らの意思で動いてもらうようにしていかないといけない。役場職員だからというわけではなく、地域に住んでいる一人の住民として同じように活動してほしいという思いがある。地域活動に対する考え方について、職員の教育も必要だと思っている。

【副村長】

- ・若い世代をどのように自治会に加入させていくかと役員の高齢化という大きく2つの問題があると思う。そういう中で役員がイニシアティブを持って強力に行っていかなければならない。現時点では具体的な案というものはないが、話し合いをしながら考える必要がある。
- ・今はコロナ禍で事業ができていないが、活動を見直すチャンスと捉え、今後の自治会活動について話し合ってもらいたい。今まで通りの方法でやっていきたい人と、スリム化していきたい人のせめぎ合いはあると思う。
- ・村からの交付金等を消化するためにどうしても活動をしなければならないと思っている人がいるのかもしれない。村でも予算を絞るという方法もあるが、村の一方的なやり方で地域の活動を見直しさせるというのも難しい。
- ・今後は働いている人にも役員をやってもらうしかないと思うので、役員の負担を軽くする方法を考えたり、事業を見直すことが必要だと思う。

【佐藤村民生活部長】

- ・自治会のメリットをなかなか感じてくれないという話が多かった。その通りだと思うが、もう一度自治会の役割とは何であるのか振り返ってほしい。地域には防犯連絡員がいると思うが、パトロールなど地域に尽力していただいている。そのおかげもあってか、東海村の犯罪発生率は44市町村中41位と非常に低くなっている。自治会活動で大事なものは災害対策、防犯、治安、コミュニティ、美化活動などたくさんあるが、もう一度何が大切で必要なことであるか振り返り、精査し、何を残していくかを考えていくことが必要だと思う。その上で負担軽減を考えていかなくてはならない。
- ・自治会未加入者についても、メリットを伝えていくことも必要だが、同時に活動を一緒にやっていきませんかという声かけをしていくことが大事だと思う。この部分については村も一緒に考えていきたい。

【池田課長】

本日はテーマに沿って話し合っていたが、高齢化の中で地域活動を継続していくために、様々な課題とアイデアがあるのは分かったと思う。皆さんは少ない時間では言い尽くせないほどの現実的な課題に直面され、本当に真剣に地域活動のこれからについて考えていらっしゃるのだと改めて実感した。

本日の話し合いについては、後日議事録としてまとめ、参加された方全員に配付したいと思う。今回の話し合いを受け、地域の中でも話し合いを重ねていただき、持続可能な自治会活動を考えるためのきっかけとしていただければと思う。

【山田村長】

今日いただいた意見を整理すると、今の自治会の中の課題は当然最優先になるし、この自治会活動を次の世代に引き継いでいくためにどうしたら良いか、次の30代～40代の方にどれだけ自治会に関心を持ってもらえるのか考えるところがある。

30代～40代の子を持つ世代はPTA活動をやり、多少地域と関わりを持ったとしても、子どもが高校生になるとPTA活動から離れ、地域とも関わりがなくなるということがある。このようにPTA活動で培った地域との繋がりが続いていかない。今後は、小・中学校のPTA役員の方々とも話をし、自治会活動や地域活動の大切さについて直接訴えることも必要だと思う。

今後の話し合いや活動をどのようにしていくのか、今の自治会をこれ以上衰退させないためにはどうすれば良いか、私も一緒に考えていくので、それぞれの単位自治会と話し合っていき、解決策を見出していきたいと思う。